

大阪府高槻市におけるサシバの繁殖記録

又野淳子¹・又野芳徳¹・高田みちよ²

1. 〒569-1029 大阪府高槻市安岡寺町1-61-7

2. 芥川緑地資料館(あくあびあ芥川). 〒569-1042 大阪府高槻市南平台5-59-1

はじめに

サシバ *Butastur indicus* は、アムール地方南部、ウスリー地方、中国の東北地方から河北省、日本の東北地方から九州までの極東の限られた地域で繁殖する猛禽である(森岡ほか 1995)。近年、里山環境の保全が見直される中、里山における高次捕食者として注目されつつあり、本種の環境選択や生息状況の調査が行なわれるようになってきた(東ほか 1998, 1999, 時田・東 1999, 平野ほか 2004)。サシバは他の猛禽類と同様に減少傾向にあり、特に大阪府では生息地の開発のため個体数が減少しており、近畿地区のレッドデータブックでは「ランク 2 絶滅危惧(繁殖個体群)」とされている(山岸ほか 2002)。このような状況下にあっても猛禽類の生息情報が公開されることは少なく、サシバに関しても、渡りに関するものは多いが繁殖に関する情報は少ないのが現状である。

今回観察されたサシバの繁殖は、1992年に確認されたものである。心無いカメラマンやバードウォッチャーが本種の繁殖に悪影響をおよぼすことを懸念して公開をためらってきたが、上記のような情報不足の現状に加え、本調査以後は当該地での繁殖が確認されておらず、本報が当該地でのサシバの繁殖にもはや影響をおよぼさないことをふまえ、ここに報告する。

調査方法

調査地である大阪府高槻市二料は北摂山系に属する市内北部に位置し、標高300~400mのスギの混在するヒノキ植林を主体とする山地である。尾根部にはアカマツ林が存在するが、枯死木が多く見られる。林縁部にはヌルデ、イタドリ、クズ等によるマント群落が形成されている。淀川の二次支川である二料川沿いに府道733号が、さらに府道の南側は水田と畑地が整備され、典型的な里山である(図 1, 2)。

調査対象としたサシバは大阪府では夏鳥で、3月末から4月初めに東南アジア方面から飛来し、4月上旬に繁殖地に渡来し、農耕地に近い林縁部の樹上で繁殖する(森岡ほか 1995)。繁殖期が終了した9月下旬から10月中旬に東南アジアへ飛去する。

1992年 6月 7日から 8月 2日のうちの19日間、のべ約50時間にわたり調査を実施した。本ペアによる営巣が「高槻野鳥の会」の探鳥会で偶然発見されたため、その後の繁殖状況を追跡した。調査対象であるサシバの巣は道から観察できたため、調査は8~10倍の双眼鏡および20~40倍のフイー

2006年 1月27日 受理

キーワード: サシバ, *Butastur indicus*, 繁殖, 高槻市

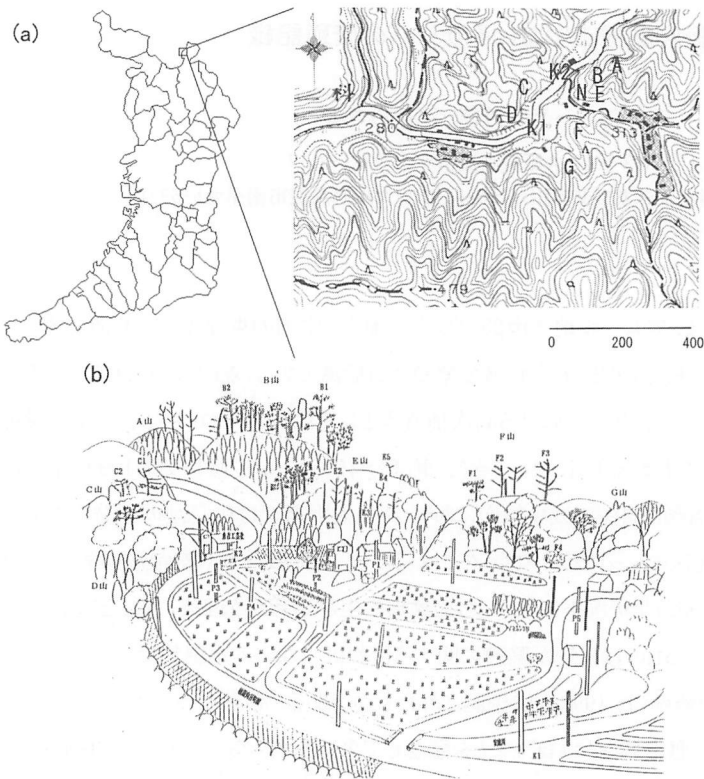


図 1. 調査地点位置(a)と営巣地付近の詳細(b)

Fig. 1. The observation point (a) and the detail of the environment around the nesting place (b)



図 2. 営巣地周辺の環境

Fig. 2. The environment around the nesting place.

ルドスコープをもちいた定点観察のみとした。繁殖経過，餌動物の種類，給餌回数，狩りの方法をおもな調査項目とした。個体識別は雌の翼の欠損と雌雄の体色により行なった。本ペア以外の個体との識別については行動等により判断した。1992年 6月 7日から 7月11日は地点K1，7月13日から 8月 2日は地点K2をそれぞれ調査地点とした(図 1)。



図 3. 6月14日のヒナ(孵化から11日または12日後)
Fig. 3. The chicks, June 14 (11 or 12 days after hatching)



図 4. 7月18日の巣立ちヒナ(孵化から45日または46日後)
Fig. 4. The fledglings, July 18 (45 or 46 days after hatching)

調査結果および考察

確認されたサシバの営巣木は、標高約340mの北西斜面のヒノキ林の中にある胸高周囲115cm(胸高直径約36.6cm)のアカツであった。巣は営巣木の上部から5分の1程度の高さ(地上高約20m)に、幹の周りの枝を利用してつくられていた。巣内には新鮮な青葉が敷かれており、雌が巣を補修するのが観察された。巣の南西側は開けており、給餌の際の巣への出入り口となっていた。

抱卵期間が31~33日(小島 1982), 育雛期間36日(Kojima 1987)とした場合、巣立ち日から逆算すると、本繁殖における産卵日は4月29日から5月1日の間、孵化日は6月2日から3日の間と推定された。ヒナは3羽で、6月7日には真っ白な綿羽に包まれていたが、6月14日には背が茶色がか(図3)、6月27日にはほぼ全身が茶色の幼羽に包まれ、頭部にのみ綿羽が残る程度となった(付表)。7月4日には巣の外に出て枝移りをするようになり、親と同じ声で“ピクイー”と鳴くところが確認された。7月8日に1羽が、7月9日に残りの2羽が営巣木から姿を消しており、巣立ちしたものと判断された。巣立ち後もしばらくは巣のまわりにとどまり(図4)、親からの給餌を受けていた。餌を食べる順位があるのか、親鳥から与えられた餌を1羽が食べている間、他の2羽は待ち、食べ終わると交替した。8月2日以降、親鳥、幼鳥ともに観察されなくなり、分散したものと思われた。

ヒナに給餌した動物はカエル類、ヘビ類、トカゲ類、鳥類、チョウ目の幼虫、その他の昆虫類、ムカデの仲間と思われる等脚類、ミズブの仲間と思われる細長いものであった(表1)。このうち、最も多いのがヘビ類で14.1%(種類が判明したものの中では31.0%)、次がカエル類で9.4%、昆虫類6.3%(N=64)と、両生爬虫類が最も多く、次が昆虫類であった。これは関東地方で調べられたサシバの食性と一致していた(東 2004, 百瀬ほか 2005)。育雛初期はおもに雄が狩りをし、巣内の雌が餌をさばいてヒナに給餌していた。餌の運搬回数は雄が合計37回、雌が合計16回であった。ヒナは孵化後17日、または18日後から給餌された動物を自分でちぎって食べるようになった。狩りの方法として、農耕地内の電柱に止まって待ち伏せし、水田に降下して捕獲する行動が4回観察された。

表 1. 食物内容と運搬回数

Table 1. Items and frequency of bringing foods by each parent

食物内容 Food contents		サシバの性別 Sex of Gray-faced Buzzard			合計 Total	割合 (%) Percentage
		雄 Male	雌 Female	不明 Unknown		
鳥類	Avian sp.	2		2	4	6.3
ヘビ類	Ophidian sp.	4	2	3	9	14.1
トカゲ類	Lizard sp.			1	1	1.6
カエル類	Frog sp.	5	1		6	9.4
チョウ目幼虫	Butterfly larvae	2		1	3	4.7
その他の昆虫	Other insects	1	2	1	4	6.3
ムカデの仲間	Centipede	1			1	1.6
ミミズの仲間	Angleworm	1			1	1.6
不明	Unknown	21	11	3	35	54.7
合計 Total		37	16	11	64	100

ただし、雄はカエル1匹は与えなかった

本調査を実施した1992年以降、当該地でのサシバの繁殖は確認されていない。環境はほとんど変化していないのでその原因は明らかでない。

謝 辞

高槻野鳥の会の足立道成氏、有澤三喜夫氏、合田征子氏、田中淳子氏、矢野真弓氏は調査に協力頂いた。ここに記して御礼申し上げる。

引用文献

- 東淳樹. 2004. サシバとその生息地の保全に関する地域生態学的研究. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 12: 1-119.
- 東淳樹・武内和彦・恒川篤史. 1998. 谷津環境におけるサシバの行動と生息条件. 環境情報科学論文集 12: 239-244.
- 東淳樹・時田賢一・武内和彦・恒川篤史. 1999. 千葉県手賀沼流域におけるサシバの生息地の土地環境条件. 農村計画論文集第18刊別冊: 253-258.
- 平野敏明・君島昌夫・小堀政一郎. 2004. 渡良瀬遊水地におけるサシバの採食環境と食性. Strix 22: 45-58.
- 小島幸彦. 1982. サシバ (*Butastur indicus*) のテリトリーとテリトリー行動. 鳥 30: 117-147.
- Kojima, Y. 1987. Breeding Success of the Grey-faced Buzzard Eagle *Butastur indicus*. Jpn. J. Ornithol. 36: 71-78.
- 百瀬浩・植田睦之・藤原宣夫・内山拓也・石坂健彦・森崎耕一・松江正彦. 2005. サシバ (*Butastur indicus*) の営巣場所数に影響する環境要因. 日本造園学会誌ランドスケープ研究 68: 555-558.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑 日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 時田賢一・東淳樹. 1999. 千葉県手賀沼流域におけるサシバの生息地の土地環境. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 7: 37-47.

山岸哲・江崎保男・和田岳. 2002. 近畿地区 鳥類レッドデータブックー絶滅危惧種判定システムの開発
ー. 京都大学学術出版会, 京都市.

Breeding of the Grey-faced Buzzard in Takatsuki, Osaka

Junko Matano¹, Yoshinori Matano¹, Michiyo Takada²

1. 61-7, Ankouji-cho 1 chome, Takatsuki, Osaka 569-1029, Japan

2. Akutagawa Ryokuchi Shiryoukan (Akuapia Akutagawa). 59-1, Nanpeidai 5 chome, Takatsuki,
Osaka 569-1042, Japan

We observed the breeding of the Grey-faced Buzzard *Butastur indicus* in Takatsuki City, the northernmost hilly area of Osaka Prefecture, western Japan from June 7 to August 2, 1992. The nest was built in a Japanese red pine tree *Pinus densiflora* on a hillside adjacent to a field. We inferred the hatching day was June 2 or 3 from the fledging days, July 8 and 9. Food was mainly brought by the male and dissected by the female to feed the three chicks, which managed to dissect it by themselves, 17 or 18 days after hatching. We heard the young make a begging call, “pik-wee,” that sounded similar to an adult call, 4 or 5 days before fledging. The fledglings were last observed on August 2. The species has not bred at this site since 1992.

Key-words: breeding, *Butastur indicus*, *Grey-faced Buzzard*, *Takatsuki City*

付表. ヒナの行動と外見の変化

Appendix. Changes in behavior and appearance of the chicks

観察日 Date(1992)	観察時間 Observation period	観察者数 No. of observers	ヒナの推定日齢 Estimated age in day	行動 Behavior	ヒナの外見の変化 Change in appearance of chicks
6/7	-	-	4-5	巣からわずかに頭が見える。	真っ白な綿羽に包まれている。
6/13	7:30-10:30	2	10-11	首を伸ばして親鳥が食物を運んでくるのを待つ。 尻を巣の外へ向け、水っぽい糞を飛ばす。	真っ白な綿羽に包まれており、目の周りと嘴が黒い。
6/14	8:17-13:20	4	11-12	巣の中で立ち上がり、羽を広げて伸びをするが、バランスが悪く落ちそうになる。	背中が茶色がかかり、一回り大きくなる。初列風切の先端が黒い。
6/20	7:25-9:55	2	17-18	2羽が羽ばたきの練習を始め、巣の縁に立つ。 2羽はある程度、自分で食物をちぎって食べられる。	翼に黒線 2本、尾羽に黒帯 2本。頭に比べて体が大きくなり、成鳥の形に近づく。
6/21	10:00-15:02	3	18-19	盛んに動き、羽を広げる。	
6/27	16:21-19:20	5	24-25	互いにつつきあう。	全体が茶色っぽくなり、頭に綿羽が残っている。
6/28	13:25-16:33	2	25-26	巣の中にたくさんある食物を引っ張り、自分で食べる。	眉が薄茶色になり、尾羽の黒帯をはっきりする。
7/4	8:28-12:19	9	31-32	盛んにビクイーと鳴く。翼で隠して食物を食べる。巣から出て枝へ10~20cm程度移り、バタバタする。巣内の緑の葉をくわえたり、足でつかんだりする。親鳥の抜けた尾羽で2羽が遊ぶ。	足指は黄色、胸は縦斑、脇は黄斑、喉に黒い、縦紋、眉はバフ色、嘴の先は黒く、付け根は灰色。
7/5	13:35-15:27	4	32-33	雨の中じっとし、1羽は頭を後ろ向きに突っ込んでいる。小雨になると羽繕いをする。1羽が盛んに鳴く。3羽とも20cm枝移りし、1羽は緑の葉をつかんでいる。	翼(雨覆の先端付近)に白斑。
7/6	6:00-7:30	1	33-34	1羽が枝に移り、もう1羽が同じ場所へ移ったので、先の1羽を突き落とす結果となった。	
7/7	6:00-6:45 12:10-13:40	1 1	34-35	7月6日に落鳥した個体が枝伝いに帰ってきた。	
7/8	12:00-13:00	1	35-36	巣に2羽がおり、1羽がいなくなる。この1羽は巣立ちとみなす。親鳥が来ると戻ってきて3羽になる。	
7/9	6:00-6:30 12:00	1 1	36-37	巣内にはヒナが見えず、3羽ともいなくなる。3羽とも巣立ちとみなす。昼頃に3羽とも巣に戻ってくる。	
7/10	6:20-13:06	2	37-38	(E山の)巣付近の木を移動し、親鳥が来ると3羽とも巣へ帰る。巣の木で過ごす時間は多い。親鳥に羽をバタバタさせて甘える。食物を食べる優先順位があるのか、1羽が食べ終わるまで他のヒナは待っていて交替する。巣から2m程右の枝に移り、向かい風で羽ばたき練習をする。	フシヨは白い羽に覆われ、太い。
7/11	9:00-9:40	2	38-39	巣の山(E山)で2羽を確認する。うち1羽は巣や営巣木で確認。盛んに鳴く。	目の周りの黒っぽさが少なくなってきた。全体の色は成鳥よりも淡い。
7/13	8:34-10:19	2	40-41	営巣木にはおらず、B山の枯死したアカマツで給餌を待つ。B1からB2の木々を飛び回り、親鳥がくると3羽が集まる。飛び方はぎこちない。糞は以前と比べて固くなっている。	目の周りの黒っぽさが減ってきた。
7/18	15:29-19:00	2	45-46	飛び方がかなり上手くなった。B1で3羽を確認。親がくると3羽もしくは2羽が集まる。B1の左右7本位の木を盛んに移動する。19時頃、雷雨となり、アカマツの樹間に入り、寝る。	嘴は灰色っぽく、喉はバフ色で黒い縦線がある。頬には黒っぽい縦線があり、眉はバフ色で太く、頭頂は暗褐色を帯びる。バフ色の胸に褐色の縦斑があり、脇には黄斑があるがくっきりとせず、ソロバン玉模様である。暗褐色の雨覆の先端が白斑に見える。風切は雨覆より黒っぽい。尾羽を背面から見ると先端が白っぽく、3本の黒帯があり、先端に近い1本の幅が広い。尾の下面は灰色で、尾はかなり長くなった。フシヨはバフ色で足指は黄色、爪は黒。
7/25	14:51-16:20	2	52-53	飛距離がのび、飛び方にぎこちなさがなくなった。B山およびA山の木に2羽が止まる。鳴き声がよく聞こえる。	
8/2	16:40-18:03	2	60-61	確認できず。	